

E-11 という美神 あるいは人間ビヨンド



筑波大学の協力を得て、ワールドチャンピオンの筋力を測った。驚いたのは、筋肉の疲労回復力を測るため反復測定したのだが、回を重ねるごとにデータがアップしたこと（最初はマジじゃなかったという噂もあるけれど）

© TAKI 1993



世に、ビヨンよりカッコいい
プロ・スポーツ選手がいるだろうか？
ビヨンは、ステファン・エドバーグより骨太で、
アイルトン・セナより背が高い、
アルシンドはハゲで、
マイケル・ジョーダンには
ビヨンのようなナイーブさがない、
よろこべ、わしらボードセイラーは、
ビヨンという、強く、美しく、
神々しい頂点をもち得たのだ、
この特集は、かれの23年間の記録するもの、
全世界200万の、ビヨン・ファンに捧ぐ。



DUNKERBECK FILE

by TOKO

69年7月16日、デンマークのリーベ市に生まれた。

4歳の記憶は、

自分より大きな犬と遊んだこと、ノルウェイへ客船で家族旅行したこと。

78年、ダンカヘック一家はスペイン領カナリーアイランドに移住、同時にセイリングを始める。

ピヨンは9歳で、サーファー艇のプー人に手が届かなかった。

11歳にしてDIIのレガッタに参戦、81年にはスペインのナショナルチャンピオンを下す。

同年、ミストラルワールドのためカナリーに遠征していたロビー・ナッシュに会い、ローカルブレイクに乗る王者に感激、「やっぱり上手ですね」と話しかけサインをもらい記念撮影を果たす。

ピヨンは13歳で、また世界は彼方にあつた。83年、カナリーのフュータベンチュラ島でワールドカップに初参戦するも、結果は後ろから数えて5位。

84年シユベンゲンのCCHでは3分遅れてスタートしたレディスのジョリー・テイワードに抜かれそうになる。

86年御前崎、ウェイブ3位、総合5位。88年新島のマルイ・オールSLで初めてロビーを破り、同年PBA年間総合ランキング1位、最終戦のアロハクラシックで、アンダースを僅差で逆転しての結果、以後5年連続でその座を守っている。

国籍オランダ。身長192cm。体重90kg。背筋力208kg。血液型不詳。年収1億(推定)5ヶ国語を話し、なによりもラフコンディションでのウインドサーフィンを愛す。この男がHelen。

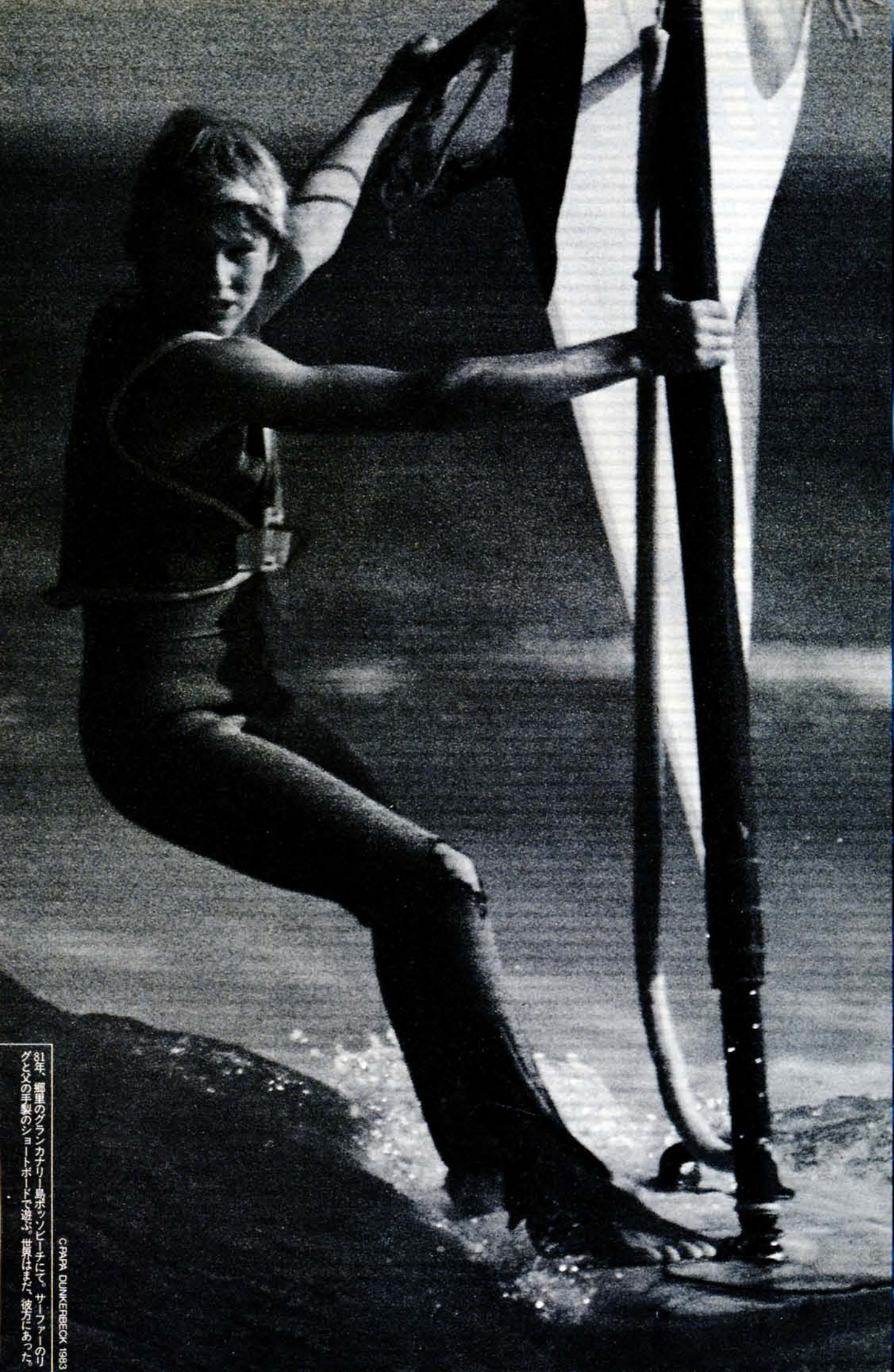
ウインドサーフィンの史上最強の王者は、24回目の誕生日を迎える。

ロビーがこのスポーツの歴史だとすれば、ピヨンは弾頭である。それは、あるいは時間よりも速く飛ぶ。



92年御前崎、プレス艇の目前でボート切り返す。あれはなんだっ？鳥だっ、機関車だっ、いや、ピヨンのダンカヘックだっ！

©TAKI 1992



81年、郷里のランカリー島ホントにて、サーファーのリーグと父の手製のショートボードで遊ぶ。世間はまた、彼方にあつた。

©PAPA DUNKERBECK 1983



タスカージャパン (ガストラの代理店) のゼロロックで撮影。手相占いに見せ、かれの未来を知ろうと思ったのだが、全面マメで指紋が判別できず、断念。右手のサイズは中指の先から底までが215mm、握力は76kgである。



「あなたは、神に選ばれた 「ト」だと思いませんか？」

●最初は素朴な質問で、えー、チャ
ンピオンもセイリング中いい気持ち
になって、イイヤッホーと叫ぶこと
があるんですか？ ぼくら一般セイ
ラーはよくやるんだけど、

●BD●うん、叫ぶこともあるよ、時々ね
友だちがGOOD MOVEをしたのを
見たり、自分ですごく高いバックル
ープをしたときが「フオー」ってね、

●BD●レム海で、フオーって叫んで
るんだ、...少し意外な気がする、ロ
ビンは今でもある種やんちゃにウイ
ンドを楽しんでるよ、見えるけど、
ビヨンの場合もってシリアスで、集中
の度がひどく高いように思えるから、
BD●レースのときはクールであるよ
に努めるから.....

●BD●口の悪い人は、あいつウインドが
楽しいのかよ、と言ってるよ、

●BD●楽しむ、っていろんなレベルがあ
るからね、ラクして手に入れられる
ものには大して価値がないんだ、
ぼくはウインドサーフィンが大好き
で、ウインドサーフィンはぼくの人
生で、ぼくの人生観は、やりたいこ

とを、真面目に、一生懸命やること
そうやればエンジョイできる、人生
をね、そんなほくが、ウインドサー
フィンを楽しんでないわけがない

●BD●もうひとつ素朴な質問なんだけど、
なんであなたはあんなに速いの？

●BD●それはスモウ・レスラーに、なん
でそんなに力持ちなの、って聞くみ
たいなことだよ、

ある種のことには優っている人には、
そのことはノーマルなんだ、ぼくが
スラロムボードで40ノットオーバ
ーで突っ走るのは何でもない、何
も新しいことじゃない、毎日やって
ることだから、ハイジャンプもね、
で、それを楽しめるようになるよ、
なんというか、それが自分の一部に
なるんだ、

●BD●でも、生まれて初めてフワード
ループにトライするときとか、経験
したこのないサイズの波に乗ると
きは怖いでしょ、ビヨンのとって
もそれはノーマルなことじゃなかった
と思うけど、

●BD●ぼくは、ビッグウェイブできたき
たに巻かれるようになるか想像でき
る、だから、怖いよ、でもそうだが
ら面白いんだ、失敗するとヤバイス
ポーツがぼくには必要なんだ、ぼく
はマウンテンバイクもやる、転倒を
恐れてゆっくり走ってもつまらない
いつも目一杯飛ばす、ヤバいな、
コケたらひどい目に遭うだろうな、
とびりながら飛ばしてる空を、

●BD●ウインドはデニスやゴルフとは違
って、スキーなんか特にそうだけ
恐怖心を克服するのが難しいでしょ、
一般のセイラーだと、ジャイブの内
傾すら怖くてなかなか克服できない、
ビヨンの場合はきつと、ある瞬間に
恐怖心を積極的な気分スイッチで
きるんだと思う、それは才能とい
うしかないと思うんだけど、そのあた
りのコツ、みたいなことを教えて欲
しいんだけど、

●BD●違うよ、FEAR MIND と FUN
MIND はイコールなんだよ、

●BD●イコール？

●BD●そう、全く同じ、

●BD●でも、普通の人には怖いばっかだよ、

●BD●そうかも知れないね、

●BD●それがトップ・スポーツマンの才
能なのか、

●BD●うん、そうだと思うよ、でもね、
誰にとってもそうだと思うけど、自
分をブッシュしないと退屈しちゃう
んだ、たとえば20ノットの風で50m
で出る、遊びだね、ラクだけと退屈
だ、だから6.0mでブーンと飛ばす、
クレイジーなジャイブをして、ちょ
っぴりホップ！ それを楽しんだよ、

●BD●そういうと、ビヨンの楽しめるコ
ンディションってあまりないよね、

●BD●そう、どんな状況になる、10年
前は2mのジャンプでも「フオー」
って叫んでたけど、今は15mでない
とね、波も6フィート(マスター本
半、オーバーじゃなく)、

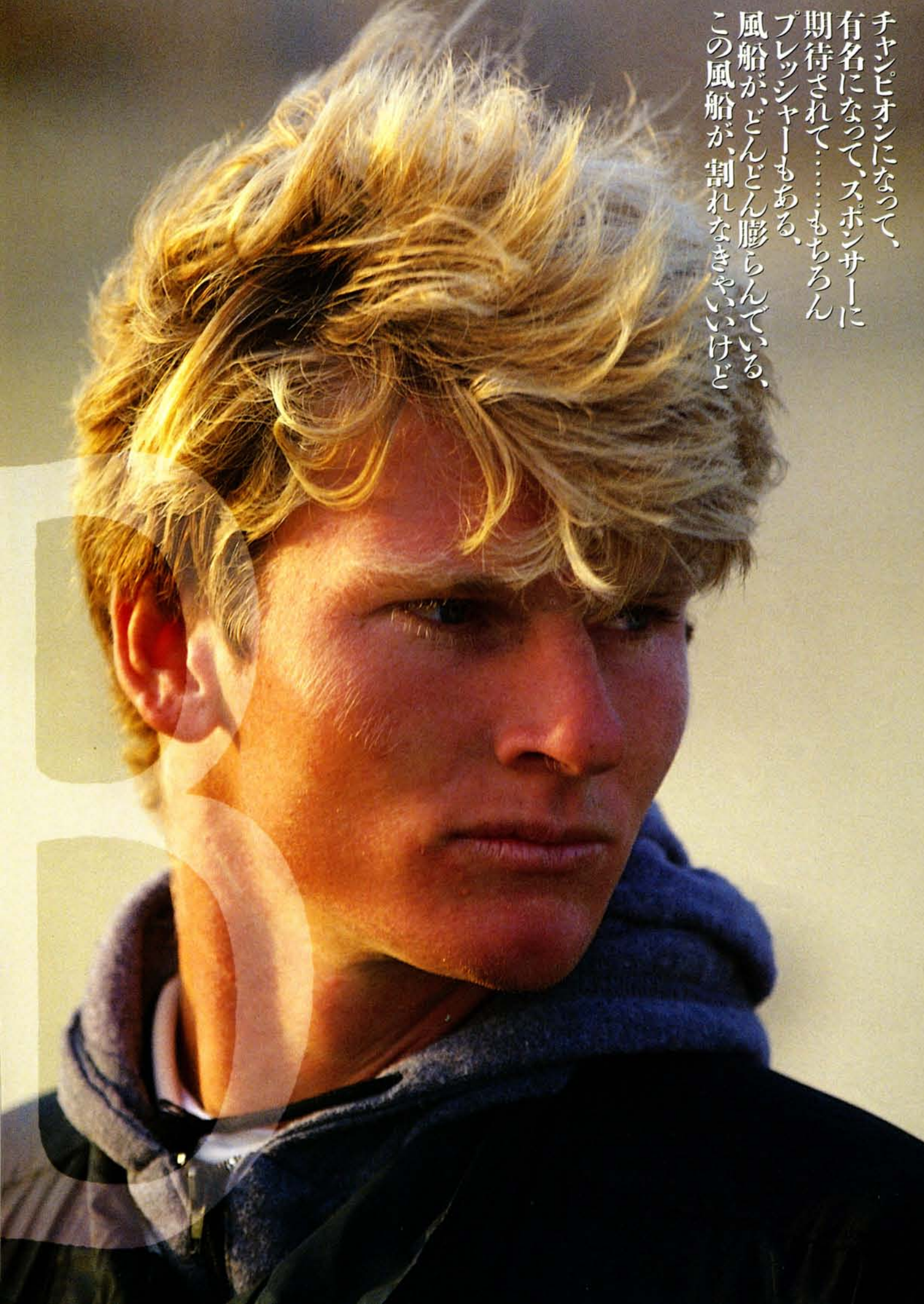
●BD●ほとんど危険になる、あなたの力

ラダは高価なのに、もし怪我したら
大損害だよ、

●BD●うん、でもそうしないと勝てない
よ、どんなスポーツでも、トップで
いるのはリスキーだ、ダブルマスト
のリップでエアリアルして幾ら、ト
ップマンは、普通の人が出来ないこ
とをやってお金を貰ってるんだ、ほ
くも、そう、1年に40回か50回はき
りぎりのウインドサーフィンをやる、
誰かによれ、って言われてるわけじ
やない、それはぼくが生きて行くう
えで必要なことなんだ、でも、それ
で生きていくのに必要なお金を得て
るとは考えないようにしてる、ただ、
そうやってしまったことなんだよ、

●BD●ぼくは、誰もスポンサーしてくれ
なくなってもウインドサーフィンを
やるよ、そしてPUSH THE LIMIT、

なんでそんなに速いのかって？
それはスモウ・レスラーに、
なんでそんなに力が強いのかって
聞くみたいなんだよ、



チャンピオンになって、有名になって、スポンサーに期待されて……もてるんプレッシャーもある。風船が、どんどん膨らんでいる。この風船が、割れなきやいけど



内気な少年は、パンプキン・ペッカー(青少年時代のあだ名)になり、完全なる青年になった。

わしは別にマッチョにあこがれるオカマではないが、男の子が、成長し、強く、圧倒的になってゆく過程を眺めるのは愉快だ。同性として、なんとか勇気を与えられるような気がする。



1984 (14歳)
DIIのカナリー・チャンピオンだったピヨンは、この時期にはショートボードのウェイブに専念。父がF2のカナリー地代店を始めた後も、ストラートでCRも始めた。



1985 (15歳)
ブリットはひとつで彼の妹思いは有名。84年のシルト、ウェイブで5位に入賞し、85年はラ・トーシュのウェイブで9位。頭の中はトップセイラーになる夢で一杯だった。



1986 (16歳)
高校進学を捨ててF2チーム入りしプロデビュー。同時にワールドツアーを始める。計4戦に参加し、WBA年間総合7位。プロ1年目にしてF2チームのエースとなった。



1987 (17歳)
86年から87年にかけての成長は異常だった。筋肉が追いつかないほど背丈が伸び、Sも進歩、サンフランシスコとカリブで優勝し、年間総合ランキングを2位とした。



1988 (18歳)
シーズンの終わり、彼は語った。「昨年の2位は簡単だった。大会が5つしかなかった。今年は16戦だから2位でも上出来だと思っていたのに」最終戦でアンダースを逆転した。



1989 (19歳)
CRにショートボードが使われるようになり、それまでやが苦手としてきたCRでも圧倒的な軽速を見せつける。かおは全く穴のないオールラウンダーとして君臨し始めた。

ときどき、ぼくのリミットはどんなにだろーと考える。リミットはないよーにも思える。水泳だったら100m何秒とかあるけれど、ウインドサーフィンは自然相手だからそれが無い。道具もどんどん良くなって、他の選手もどんどんタフになってる。だからこんなにも長いあいだ、必死にやって続けられるんだと思う。

●そんなピヨンの、厭だなあ、今日はセイリングしたくねえなあ、と思っこともあるの？

BD ●うん、時々ね、雨が降って寒いとき、風が弱くてガステイなとき、あとカナリーの家でリラックスしたいときとか、けっこうある(笑) ぼくは1年365日ウインドサーフィンやってられませんよ、倒れちゃうよ、マウイで風がいいと、朝から日没まで海に出て聞くけど、

BD ●そうでもない、でもどこに行っても水のあるところに留まってセイリングするよ、他の選手と較べても、

練習量が多いほうじゃないかな、御前崎の前はマウイに5週間いて、セイリングしなかったのは3日だけだった、その3日は風がなかったんだ、信じられないくらい素晴らしい。6〜8フィートの波が何日も続いて、人があまりいなくて、毎日4、5時間ウェイブしたよ、GREAT WIND SURFING、

●ウェイブで、フリーセイリングとコンテストのときのマインドは、どんなふうに変う？

BD ●3つやらないといけないとなると、フリーセイリングのようには無心になれない、波を見て、つねにフォロイしなければならぬラインもあるし、運もあるし……大切なのはリズムだね、フォーンが鳴って、一発決めて、あるリズムに乗れるとうまくゆくことが多い、

●コースレースで、今回の御前崎では2度ほどスタートでハマりましたね、あれは、相対的にピヨンの他者

の差が縮まっている現在の競技レベルにおいても、ジャストスタートしなくても勝てる艇速がある、という自信の現れなんですか？

BD ●ぼくはスタートでリスクを取ることはしない、とくにコンテストの前半はね、ブラッフラッグが揚がってリコールしたらゼロだし、リスキーなスタートをして、1位か20位になるより、2位3位のほうがいい、安全にスタートして、初めの3つ4つのレースでいい成績を残すと、後半はジャストスタートしてトップを取りにいける。アルマナーのあと(スラロームでコースミスをして、総合14位に終わった)慎重になりすぎてくることは認めるけど。

ここで、ピヨンのワールドカップデビュー以前のキャリアを紹介しておこう。ピヨンの父、ユージン・ダンカベックがデンマークで経営していたジーンズ・メーカーを閉め、スペイン領のカナリー諸島グランドカナリーに移住、ウインドサーフィンのスクールを始めた78年、当時9歳だったピヨンはテンケートというロングボードでセイリングを始めた。父は、ジャイブに難があっただけ、スペインのスピード記録を保持したこともあるスラロームで、母のウラも、タイで行われたDIIの世界選手権で準優勝したレーサーだった。11歳になるとピヨンはストック・ウインドサーファーとDII(ドーベルマン)でレースを始め、DIIでは2度カナリーのチャンピオンになった。当時はまだ遠征はしていなかったが、DIIのスペイン・チャンピオンもカナリーに住んでいて、81年には彼を破った。

ショートボードに乗り始めたのも81年である。父が自分のために削った、200cm幅65cmのラウンドテイルで、ピヨンはそれを父から取り上げた。当時カナリーには雑誌でしかハワイの情報が届かず、みな試行錯誤しつつショートボードを自作していた。この時期ピヨンは、ホームケレンであるポツピンチでミストラル・ワールドのため遠征したロビー・ナッシュに会い、サインを貰っている(22ページ参照)父がF2のカナリー地区代理店を始め、ピヨンはF2に乗るようになり、83年、カナリーのフュータベンチュラ島で行われたワールド・ファンボードカップ(82年のユーロ・ファンボードカップを世界大会に発展させ、WBA、PBAの前身となった大会)でローカルセイラーの特別枠によりオープンクラスにデビュー、風がなくてコースレースしか成立せず、ピヨンは「たしか5位だった、後ろから数えて」という結果に終わるが、ミストラル・ワールドに続いてWファンボード



1990 (20歳)
3種目とも1位の完全優勝を果たし、4つの銅杯を手にする。スラロームは最終戦のアロハでミスを重ね、アンダースに逆転首位の望みを残したがぎりぎり逃げ切った。



1991 (21歳)
CRとSLは、前年まではアンダースと拮抗していたが、91年になるとその差が歴然とし、独走に難く独走となった。ウェイブは順風時代、ロビー、ジェysonに続く総合3位。



1992 (22歳)
ロビーとタイ記録の5年連続年間総合首位を達成。全レースストップを続け、あまりの強さに嫌われ、やがて呆れ尊敬され、もう誰もピヨンの勝負自信をなくしてしまった。



1993 (23歳)
今年ピヨンはアルマナーの大チョンボで幕を開けた。SLでコースミス、総合14位。御前崎では復活したが、CRでアンダースに追われ、WVはボラコウに優勝を譲った。

史上最強の王者による蟻地獄/ビヨン・ダンカベック全成績

1985

Event	Course Race	Slalom	Wave	Overall
SYLT/W. Germany	-	-	9	-

1986

Event	Course Race	Slalom	Wave	Overall
OMAEZAKI/Japan	19	6	3	5
LA TORCHE/France	17	3	3	3
SYLT/W. Germany	-	Canceled	2	-
ZANTVOORT/Holland	-	17	9	-
1986 Overall	19	4	3	7

1987

Event	Course Race	Slalom	Wave	Overall
OMAEZAKI/Japan	15	7	2	5
LA TORCHE/France	6	-	-	6
SANFRANCISCO/USA	4	1	-	1
SYLT/W. Germany	6	Canceled	2	3
ZANTVOORT/Holland	-	-	Canceled	-
GUADE LOUPE/Carib	1	1	-	1
1987 Overall	5	2	2	2

1988

Event	Course Race	Slalom	Wave	Overall
NIJIMA/Japan	-	1	-	1
OMAEZAKI/Japan	1	Canceled	Canceled	1
HO'OKIPA/USA	-	-	4	4
SYLT/W. Germany	5	1	9	3
SCHEVENINGEN/Holland	4	-	-	4
LES SABLES/France	12	-	-	12
CARIBIAN ①/Aruba	-	1	-	1
②/ Curacao	-	1	-	1
③/ Dominica	-	-	Canceled	-
SANFRANCISCO/USA	2	-	-	2
GORGE PRO. AM./USA	-	-	No Entry	-
GORGE BLOW OUT/USA	-	-	No Entry	-
LAKE GARDA/Italia	-	1	-	1
TARIFA/Spain	3	1	-	1
ZANTVOORT/Holland	9	-	-	9
HO'OKIPA/USA	-	1	5	1
1988 Overall	3	1	3	1

92 年の成績に注目してほしい。1位で終えられなかったのは、ベルシーのインドアとシルトのスラロームだけ、という異常さである。87年までのロビーも「負けるとニュースになった」がここまでの成績は残しておらず、「艇速だけならロビーに負けない」という表現が可能だった。ロビーと他者のあいだには大きな才能と経験の差があったが、ビヨンと他者のあいだには絶望的な艇速の差、エネルギーの差があった(ある)のだ。

1989

Event	Course Race	Slalom	Wave	Overall
ALMANARRE/France	1	1	2	1
HO'OKIPA/USA	5	1	5	1
OMAEZAKI/Japan	5	1	-	1
CURACAO/Caribbean	-	3	-	1
CARIBBEAN ①/Aruba	5	-	-	5
②/ Curacao	-	3	-	3
③/ Dominica Republic	-	1	-	1
④/ Puerto Rico	5	-	-	5
SOTAVENTO/Canary Islands	-	1	Canceled	1
GUINCHO/Portugal	3	2	-	1
SYLT/Germany	1	5	Canceled	1
SCHEVENINGEN/Holland	4	1	Canceled	1
HO'OKIPA/USA	1	1	17	1
1989 Overall	2	1	2	1

1990

Event	Course Race	Slalom	Wave	Overall
ALMANARRE/France	1	1	2	1
BERCY/France	-	6	-	6
HO'OKIPA/USA	Canceled	Canceled	2	2
OMAEZAKI/Japan	1	3	Canceled	1
CARIBBEAN ①/Aruba	Canceled	1	-	1
②/ Curacao	-	2	-	2
③/ Puerto Rico	1	-	-	1
SOTAVENTO/Canary Islands	-	1	-	1
SAN FRANCISCO/USA C	1	-	-	1
TARIFA/Spain	-	1	-	1
SYLT/Germany	Canceled	5	Canceled	5
SCHEVENINGEN/Holland	1	-	Canceled	1
ZANTVOORT/Holland	-	1	-	1
HO'OKIPA/USA	1	2	3	1
1990 Overall	1	1	1	1

1991

Event	Course Race	Slalom	Wave	Overall
NOUEMEA/New Caledonia	-	1	-	1
ALMANARRE/France	1	5	-	1
BERCY/France	-	2	21	8

1991

Event	Course Race	Slalom	Wave	Overall
HO'OKIPA/USA	1	1	4	1
OMAEZAKI/Japan	1	1	1	1
CARIBBEAN/Aruba	-	1	-	1
OAHU/USA	-	-	1	1
TARIFA/Spain	-	1	-	1
TENERIFE/Spain	1	1	1	1
CANARY ISLAND/Spain	-	1	Canceled	1
DIAMOND HEAD/USA	-	-	1	1
SYLT/Germany	Canceled	1	1	1
HO'OKIPA/USA	1	1	5	1
1991 Overall	1	1	3	1

1992

Event	Course Race	Slalom	Wave	Overall
NOUEMEA/New Caledonia	No Entry	-	-	-
BLOUBERG/South Africa	No Entry	-	-	-
SILVER ROCK BEACH/BARBADOS	No Entry	-	-	-
ALMANARRE/France	1	Canceled	-	1
KUAMTAN/Malaysia	-	-	Canceled	-
BERCY/France	-	4	-	4
TARIFA/Spain	-	-	No Entry	-
BARCERONA/Spain	-	1	-	1
HO'OKIPA/USA	1	Canceled	Canceled	1
OMAEZAKI/Japan	1	1	1	1
CARIBBEAN/Aruba	-	1	-	1
BRITISH VIRGIN ISLANDS	No Entry	-	-	-
DIAMOND HEAD/USA	Canceled	-	-	-
GRAN CANARIA/Canary Islands	-	1	-	1
TENERIFE/Spain	1	1	1	1
LAKE GARDA/Italy	-	1	-	1
SYLT/Germany	Canceled	2	Canceled	2
HO'OKIPA/USA	1	1	Canceled	1
1992 Overall	1	1	1	1

1993

Event	Course Race	Slalom	Wave	Overall
ALMANARRE/France	1	34	-	14
OMAEZAKI/Japan	1	Canceled	2	1

カップに参戦したロビーらトップセイラーと一緒に走ることが嬉しくてたまらなかった、という。オープンクラスの第2戦は、ユーロ・ファンボードカップ(ユーロも継続して開催されていた)のスペイン国内予選で、ビヨンは3位、本戦の出場権を得、本戦でも2位、84年シユベニングでのワールドカップへの出場資格を得た。

84年、ビヨンは14歳である。シユベニングのCRでは、当時は3分遅れでスタートしたレイイスの、ジュリー・デイワードに追い詰められた。ビヨンも、現在の男子選手がブリットに抜かれる辛さを経験したわけである。スラロームは25ノットの強風で、1回戦を勝ち抜き、ウェイブでは「風向きがぼくの得意な左で、4.0mのセイルを張って、コート・ランドとマウイ・マイヤーをやっつけて5位に入った」ビヨンがその名を知られるようになったのは、この大会からである。

翌85年はシルトとラ・トリーシュの2つのワールドカップ参戦、86年にはチームF2に参加、初来日し、サムタイム・ワールドカップでウェイブ3位、スラローム6位、総合5位という結果を残し、メジャー・デビューを果たしたのである。

ビヨンはウェイブライダーとしてデビューした。御前崎でも、軽量を利用して高いジャンプを決め、当時はまたC級難度のヘリコプター・ループ(バックループ)を数度メイク。ビヨン自身も、86年まではスラロームとCRにはさほど熱心ではなく、ウェイブライダーとして大成しようとしていた。

逸話がある。

「シヨートボードを始めて2年のあいだ、84年、85年あたりは、ぼくは、あまりに小さすぎるコースレース・ボードを使ってたんだ、ぼくは小さかったから、短くて細いボードがいいと思ってたんだ、ア

ップウインドは速くなかったけど、フリーはすごく速かった、でも86年のオランダの大会でフィンボックスを壊してしまっただけ、アクセル・オームの板を借りたら10番も前を走ってしまっただよ」

あまり知られていないが、ビヨンは88年から91年まで、カナリーのスピードトラアルに連続出場して、スラロームボードにより、88年33・5ノット、89年38・13ノット、90年39・36ノットの記録を残し、91年には43・34ノットを記録。スペインのスピードレコードを樹立した。ちなみに91年以前のレコードホルダーは、ビヨンの父、ユージンである。

ビヨンはウインドにかけるため、高校に進学しなかった。

「成績はとも良かったんで、義務教育を終えてとありあえず両親に1年間の休学を許してもらったんだ」

その後のビヨンの活躍は、ご存じの通りである。

●ビヨンが初めて御前崎にきたのは86年で、あなたは16歳で、背丈もほくらしいしなかった、翌年11cmも背が伸びて、ビーター・トーマンやバリー・スバニアとか才能あるデザイナーに出会って、すべての歯車がかみ合った、ロビーよりも6年遅く生まれたということも含めて、どこか運命的なものを感じませんか？

BD●うん、

●神が助けてくれたと思う？

BD●ぼくは信心深いけど、神のおかげとは思ってない、ただ、起こったんだよ

運が良かったことは認めるよ、当時ビーターはF2の仕事始めていて、ぼくの、8・6のボードを作ってくれた。F2のコンプリートセイルがニールブライド、そのあとニールがスポンサーになってくれ、バリー



81年、ピヨンは初めてあこがれのロビーに会い、88年3月、新島で、初めてロビーを破った。



【81年、ピヨンは雑誌でしか見たことがなかったロビーのライディングに感激、この写真を撮り、アルバムに仕舞って宝物にした。

But wishes to an already very good windsurfer. Maybe you'll have my pot someday. *Robbie Nash*

81年、ピヨンはあこがれのロビー・ナッシュに初めて会った。ミストラル・ワールドとワールド・ファンボードカップのためにカナリーに遠征していたロビーは、ピヨンのホームゲレンデ、ポソツでトレーニング、ピヨンは「ローカル・プロで遊ぶロビーにわくわくし、他の人とどうようフレンドリーであるように努め、ハロー、ハロー、お元気ですか、やっぱりお上手ですね」と話しかけサイン貰って記念写真を撮り、大切に保存したのである。



88年3月、丸井・オニール新島のスラロームは歴史的な大会となった。ロビーが初めて他者に、「明らかに」負けたのである。この敗戦によりロビーのオーラ感(の様なもの)が消えさり、ウインドは第2の時代を迎えたのだ。

と仕事をするようになり、その時点でほかのセイリングレベルはロビーや他のトップ選手に届いていて、ほくはいタイミンクにいたと思う、今は強い選手が20、いや30人はいる、新人が台頭するのがすごく難しくなってる、速くてもスラロームの第1ヒートで負けたり、ウェイブの1回戦でジェイソンに当たったりする、ほくは今より簡単に4位5位になれるときにプロになった、スポンサーシップを得ることも比較的簡単だった、当時はトップのチームライダーが1人が2人で、有望な新人を探していた、今は強い選手がすでに5人もいるから、新しい選手をサポートすることに熱心じゃない。

BD ●もし君が君のことを信じてなかったら、誰が君のことを信じてくれる？ たぶんほくはロビーに勝てるとは思ってなかった、でもロビーとレースして、彼に勝つように努力する、って聞いたかったんだと思うよ、でも2年しかかからなかった、BD ●うん、BD ●どうしてたった2年でそんな大きな夢が実現したんでしょう、BD ●だから、ただ、起こったんだよ、実際それは、あれよあれよという間だった、なんでこんなに早く世界一になれたのか分からないし、なんでずっと世界一でい続けられたのかも分からない、おそらくほくがウインドサーフィンをすごく楽しんでいるからだと思うけど、BD ●ロビーとバリーの助けもある、ふたりともいい友だちでもあり、互いによく理解しあっている、それがずいぶん役立つ、スポンサーとの関係もいい、ニールブライドは毎週どこかで「プロモーションのため」にほくが必要だろうけど、同時に

2つのことはできない、大切なのはプロモーションよりレースで勝つことなのに、有名になるとプロモーションに追われる、不幸なシステムだよ、でもかれらは練習を優先させてくれる、いったんこういうシステムが軌道に乗ると問題はなくなるんだ、BD ●9歳のときウインド始めたピヨンの人生初の夢が、ワールド・チャンピオンになることだったんですか？ BD ●そうじゃなかった、ウインドサーフィンはただ楽しみのために始めて、11歳くらいでレースを始めて、14か15のとき、ワールドカップの選手になりたいと思いついたんだよ、BD ●今は、あなたはワールド・チャンピオンになるために生まれてきたんだと思う？ BD ●分からない、でも今それをやっているし、楽しんでる、二〇二三年3年のうちに止めようなんて思っていないし、ラディカル・コンディションでウインドサーフィン以上に、面白いことがあるとは思えない、

BD ●ピヨンは、ウインドのどこがいちばん好きなの？ BD ●……ビッグウェイブとビッグエアかな、BD ●勝つことは？ BD ●もちろん！ 2位3位でいるより1位でいることのほうがよっぽどいいよ、BD ●あんなに勝つと、飽きるでしょう、BD ●最初に優勝したときはすごく興奮した、5回目もかなり、でも25回もやると感激も薄れてくる、でも2位よりはずっといい(笑) ほくは他人と競うことが好きだ、強い連中とね、ウインドサーフィンは好きで、レースが好きで、勝つことが好きで、これ以上なんのモチベーションが必要？ ラクに勝てるわけじゃない、常に挑戦なんだ、他の選手がどんどん強くなってる、あるレベルに達すると、それ以上に強くなるのが難しくなる、状況はどんどん厳しくなっている、だから、やる気がでる、BD ●追われるだけの立場でプレッシャーはない？

BD ●計画されてこうなったわけじゃない、すべては自然に起こったんだ、楽しいからウインドを始めて、友だちに勝つようになって、プロになって……スポンサーがついて、契約金や遠征費を受け取り、風船が勝手に膨らんでいる、この風船が割れなさいいと思う、「もう辞めます、自信がなくなりましたから」なんて言えない、スポンサーとの契約と、これらのためにいい仕事をするという義務がある、そういう意味ではプレッシャーがある、BD ●ピヨンはいま人生のピークにいると思うんだけど……5年連続のワールド・チャンピオンで、肉体的にもっとも美しい年齢で、健康で……この先、あるいはもっとお金を儲けたりとかはできるかも知れないけれど、今が人生のピークだと思いませんか、同時にこれからは下り坂かな、という不安も、BD ●ノウ、何がピークかによるし、今やっていることはかなりうまくいって、少なくともあと2、3年は成

功し続けると思う、毎年ワールド・チャンピオンにはなれないかも知れないけれど、とにかくそうあり続けるため頑張るつもりだよ、ロビーは5回(ワールド・チャンピオンを)やった、ロビーのあと、また5回やるのは不可能だと、皆な思っただろう、今年はまだ始まったばかりだけど、6回にしようと思う、いつかは終わりがくる、今年じゃないかと思うし、来年じゃないかと思う、でも遅かれ早かれトップの座から引き降り降ろされるだろう、でもそうなるまでウインドサーフィンは楽しむだろうし、暇になったら家に帰って友だちとリラックスしてセイリングを楽しめるだろうし、オーストラリアとかタヒチにセイリング・トリップに行ける(笑) BD ●二〇二二年のうちにピヨンを破るやつがでてくるとは思えないけど、BD ●ひとつひとつのレースに全力を尽くすだけだ、今は二〇二〇(御前崎)にいる、マウイに戻って3週間練習し、アルバに行く、ワールドタイトルを守ることは考えない、そのことに囚われすぎると、いちばん大切な今日のレースがおろそかになる、頭のなかをクリアにして、勝つ、それだけさ、ワールドタイトルはオマケだよ、初めてワールド・チャンピオンになれたときはほくがいちばん驚いた、そして次の年も、その次の年も……去年みんなが「あー4回もやれたね、5回目はどうかな」って言った、ほくは「うん、トライしてみようけど、そのことはあまり考えない、皆なよろしくまかせよう」って言ったんだ、今年も同じだよ、BD ●ピヨンは史上2人目のワールド・チャンピオンで、ロビーというお手



ときどき、ほくのリミットは、どこなんだろうと考える、リミットはないようにも思える、

本、あるいは前例があるよね、ロビーもピヨンのように圧倒的に強くて、トップでいたときは「来年は引退するかも」とばかり言っていた、でもピヨンのような若きライバルが現れ、逆転されると、チャンピオンだったときに以上に熱心になって、成長して30歳で、いまだトップにいる、そんな彼に学ぶこと、感じることはありますか？

BD ●30歳、あと6年あるね……、BD ●ロビーみたいに、まだ戦ってるだろうか、BD ●難しいな、怪我や故障がなかったら、可能性はあるけど、(しばらく考えて)うん、ほくがいちばん好きなことだから、可能性はある、でも6年は長い、なにが起こるか分からないよ、6年もあれば世界だって変わるよ、過去8年はプロとしてレース

してきた、で、いまはこんなふうだ、6年があまりあつという間に過ぎないで欲しいと思うよ、ほくは1年先のことを分らない、8月に何をやるかも分からない、マウイにいた1日の予定さえフィックスできない、朝、波と風を見てからでないとね、とにかく時間が過ぎるのが早すぎる、BD ●あなたは、レースの成績はロビー

を圧倒した、でも、ロビーのように、バイブラインとかファントムでのスパービッグウェイブ・セイリングとかのフリーセイリングの伝説を持ってませんよね、そのことで悔しく感じたり、コンプレックスを感じたりはしませんか？ BD ●ロビーの時代はまだ未開拓で、成すべきことがたくさんあった、今はもう、すべてやりつくされている、

ピヨンの、ファンセイリングっぽい写真は珍しい、きつと、オフを故郷のカナリーで過ごすときは、こういう表情をしているのだろう。

©Orwell Wong 1989



それは実際、あれよあれよという間だったんだ。世界一になったのはね、

ウインドの選手のカラダは胸筋より背筋が発達しすぎていたり背骨が曲がったりしているが、ピヨンのそれは極めて均整がとれている。

新しいことは余りない、ロングボードからノンドガのショートボードへとか、もうやり尽くされて、ぼくには何も変えられない、ロビーたちがウインドサーファー艇でウェイブセーリングを始めたとき、ぼくはまだ子供だった、ホキバの開拓もマイク・ウォルツがやった、ぼくはそこにいなかった、そういうことだよ。

実は同じ質問を、ぼくは昨年御前崎でもピヨンの投げつけた。そのときはピヨンはやや憮然として、「ぼくだって、パイプラインやファントムに大波がヒットした日にそこにいることができた、乗れるよ、でもぼくにはノースのうねりを待つ時間がない、それにカナリーでも、台風みたいな日にエクストリームなセーリングをやっている、カメラマンがそこにはいないだけだ」と答えたものだった。今年の御前崎でも、ピヨンはCRで2度アンダースにトップを許し、ウェイブの決勝でもジェイソンに敗れた。以前のピヨンのような黙り込んで、インタビュを求めても「話したくない」と拒否された。ミスをした自分が許せなかったのだ。今年はどうでもなかった。「いや、ボードチャイイスをミスしちゃったよ」

でもピヨンのウェイブを見ると、オンショアの風波も関係なく、すごく速くて高くて、まるでホキバのサイドショアみたいなラインを描いて、なんとというか新しいセーリングの次元を開拓できるように思えるんだだけだ。

トリプル・ループがリミットじゃないんだ、リミットはない、分かる？ 技術だけじゃなくて、道具もね、

●バリー（ニールプライドのデザイナー）から聞いたんだけど、あなたは非常に優秀なデザイン・リサーチャーでもあって、常に具体的な言葉で改善して欲しい部分を指摘するそうですね、セイルのリーチがこうなったら、とかポトムがVがこうなったらどうなるかと、全部分かっているじゃないですか？

●BD ●すべてを知ることができないよ、NEVER PERFECT、すべてを知ることができないよ、

●BD ●分らない、いつもIMPROVE（改善）させようとしてる、いきなりトリプル・ループはできない、でも

▶84年ポツ。ジャンプの高さをみれば、ピヨンの子供のときから（このとき彼は14歳だった）半端じゃなかったことが分かる。



▶9歳、テンケートのアームで逆上がりする。ピヨンは、セイルボードさえ与えておけば機嫌がいい、手のかからない子供だった。



●ピヨンの母、ウラさんにこれらの写真を送ってもらったのだが、解説はない。86年のザントブートWカップ会場と思われる。



ONKERBEC FILE

オンショア、超強風のカナリー・ポツビーチでの6年間で、少年ピヨンの未来を決定した

彼はグランカナリー島ポツビーチで育った。ポツは石のビーチで、左からの強いオンショアで海面はくしゃくしゃになる。風向きは反対だが、冬の御前崎以上にラフなゲレンデである。

ピヨンは9歳のときからカナリーを出て遠征するようになった16歳まで、風があればほぼ毎日、ここでセーリングした。DIIにも、父がシェイプしたショートボードにも乗った。DIIのトップレーサーだった母にタクティクスを、スペインのスピードレコードを保持していた父にショートボードの飛ばしかたを習った。学校では器械体操をやり、週4時間の練習を9年間続けた。ピヨンは健康優良児で、毎日大好きなウインドサーフィンをやって、まっすぐに育った。じっさいそれはオールラウンド・セイラーとして成長するための、理想的な少年時代だった。

多くのトップセイラーがマウイを活動の拠点にしているが、ピヨンはカナリーに家を持ち、練習のためマウイに中短期間滞在することはあるが、時間が許す限りカナリーに帰る。そこには両親の家があり、友だちがいて、ガールフレンドが待っていて、ピヨンの銅像が建っている（これは嘘）。



92年ホキバ。ピヨンはホキバのウェイブで優勝したことはない。90年のマルイ・オニール2位が最高で、ここでの優勝は彼の長年の宿願である。

うスポーツですけど、もし、ボクシングや100mダッシュみたいに純粋にフィジカルなスポーツを選んでいたら、今のよう成功できたと思う？

BD ●難しい質問を考えるね、うーん：…9歳からボクシングを始めてたら、もういまは友だちがいなくても（意味不明）、ほくはいろいろかチャレンジ性のあるスポーツが好きで、100mダッシュみたいなのは、ほくのメンタリティには不可能だと思う。

●どうして？

BD ●ほくのメンタリティにとっては、100mを9秒87で走るためにトレーニングするのは、なんのモチベーションもないんだよ、いつも同じトラックをびゅっ、びゅっ、なんてね、ウインドサーフィンは違うでしょ、もっとFUN SPORTSだよ、マウイも、カナリーも違う、自然のなかで、自然のパワーと孤独を楽しむ、自然のパワーのまえでは自分は無力だけど、ボードとセイルが、自分をシャープに保ってくれる、セイルに

●ふうん、100万ドルだね、所得税とかは、どう処理してるの？

BD ●ほくの住民票はANDORRAにある、そこはモナコみたいにノー・タックスなんだ、

●不動産は？

BD ●むかしは両親と住んでたけど、1年くらい前に買ったコンドミニアムに移って、いま自分の家を建ててる、

●大邸宅？

BD ●そうでもない、

●黒字分は銀行で眠ってるの？

BD ●いくつか不動産投資をやってる、株式投資もね、いくつかは上がって、いくつかは下がったり下がったり、銀行にお金を預けてるだけじゃ、なんにもならない、その点については賢くやりたい、大きなポートや贅沢な家を買うとか、バカげたことはやらない、必要だったら買うけど、必要なものはもう全部揃ってる、

●HUGO BOSSのスパンスードを得ましたね、一般メジャーの服飾メーカーがボードセーラーをサポートするのは初めてでしょ、あなたがハンサムで、いいカラダをしているから、かれらが目をつけたんですか？

BD ●長いあいだ、ウェアのスパンスードを探してたんだ、で、3年半前かな、ぐうぜんボスの人に会って、そのことを話して、ボスは、ゴルフとかモータースポーツとかのイベントスパンスーはやってたけど、個人のサポートはやってなかったんだ、小さな契約で始めた、ウェアと少しだけのお金、で今はかれらもすごく満足してくれてる、洋服のスタイルもほくみたいな人間のスタイルと同じだ、ストリートでストロング、それは、かれらがボスに持たせたいイメージでもあったんだ、

●プロ選手はみな業界のウェア・ス



にんげんは神のもとに平等、なんて大嘘だ。——エディ大塚

血

涙のインクで綴ったような原稿をくれ、とTOKO氏に言われた。でもほくは林真理子ではないので、自分のなかの地獄を赤裸々に綴る勇気はない。なぜほくは大塚靖仁に生まれて、ピヨンはピヨンに生まれたのだろうか。写真ひとつを比べても神は残酷だ、ということが分かる。ピヨンに接するときはいつも、ある種の緊張を強いられる。おなじPBAのスターでも、ロビーさんやアンダースの場合はそうでもない。たとえば今年の御前崎、ロビーさんは、去年かれが腰痛に悩んでいたときほくが道具を運んだことを覚えていてくれ、インタビューのときも、ほくにも良くわかるように、ゆっくりとした英語で話してくれ、話の終わりには「分かったかい」というふうにはほくの睡

ののぞき込んでくれた。アンダースは、90年にゴージに行ったとき、ほくらが借りたバケーションハウスと一緒に食事をした。ほくらがディナーを作って（ホウレン草とベーコンのサラダ、それにサーモンとシメジの蒸し焼きだった）、アンダー



Eddy O.



Bjoern D.

VS

生まれ	●東京都台東区出身/30歳	▶デンマーク・リーベ市出身/24歳
身長/体重	●163cm/58kg	▶192cm/90kg
股下	●71cm	▶92cm
背筋力	●105kg	▶208kg
握力(右/左)	●38kg/42kg	▶76kg/69kg
持病	●杉花粉症	▶右足首じん帯痛
最終学歴	●獨協大学法学部卒	▶公立中学卒
職業	●月刊ハイ・ウインド編集部員	▶フルタイム・ワールドカップ
推定年収	●数百万円	▶1億円
扱える言語	●日本語の達人	▶英語、独語、スペイン語、デンマーク語、ノルウェイ語
オフィシャル・ウェア	●マリン企画オリジナル	▶ヒューゴ・ボス

インドサーフィン・ビジネスにも精通している、いまは現役で、自分のためスポンサーのためにできるだけのいい成績を残そうとしてるし、引退しても、このスポーツに係わってゆくと思う、

●92年の獲得賞金は10万ドルだったけど、

●もう少し多い、(正確には124、074ドル。ちなみに2位のアンダースは74、871ドルである)

●でも、スポンサーからの契約金やらが大きいよね、

●賞金よりも、ずいぶん多いよ、

●賞金の2倍？ 3倍？

●もっと、もっとだよ、

ピオンを持ってますよね、ピオンが非業界の一般メジャーを選んだのはなぜ、フライド？

BD ●広告のやりかたとか、ヒューゴ・ボスが好きだし、ビーチウェアについては、ウインドサーフィン関係のスパンスードを得てもいい契約になっている、今はついてないけど……それに(控えめに)ワールド・チャンピオンの契約金はかなり高いから、

どこでも払えるものじゃない、大きな会社を見つけないと、

●いま日本の女の子のあいだではピヨンの人気に急激に高まりつつあるんです、あなたはアイドルなんです、

BD ●(緩みそうになる表情をおさへ)有名になればそれだけファンも増える、ほくはどんな人にもナイスガイであるように努めてる、あんまりギ

ヤラリーが多すぎるときは隠れたりもするけど(笑)

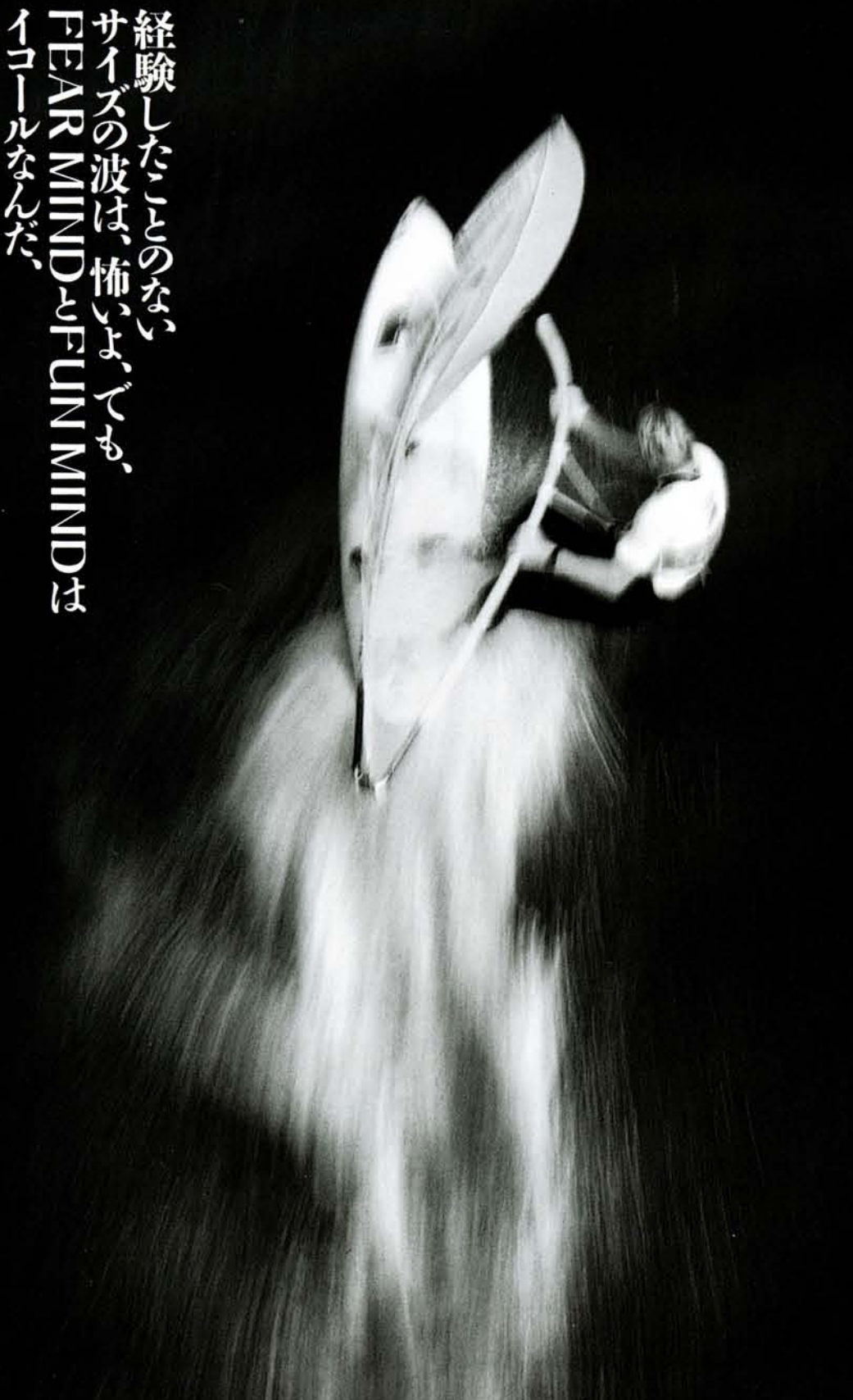
●ピヨンはたくさんサインするようになったね、昔はそうでもなかったのに、

BD ●誰でもバカなやつはきらいでしょ、ほくも昔ロビーがカナリーにきたときサインを貰ったよ、写真も撮った、嬉しかったよ、だからほくもサインをあげる、たったそれだけのことで

©Darrell Wong 1992

所謂、80年代のサーフィン、正面から見て、アシメのマンマに膝のサスが激しく、下動して、上半身は静止しているのだ、

経験したことのない
サイズの波は、怖くも、
FEAR MIND & FUN MINDは
イコールなんだ、





サイボーグの筋肉を測定、
疲労/回復力を診るため反復測定
するも、ビヨンのデータは
回を重ねるたびにアップした



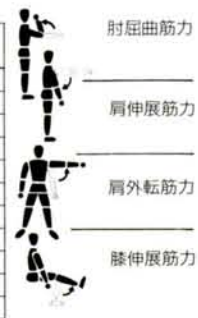
ビヨンも肉体的な商売なので徐々にムキになり、握力など5回も測り直した。背筋計はビヨンの身長に対してチェーンが短かすぎ、正確に測れなかった。

©TAN 1993

筑 波大学スポーツ医学研究室の協力を得て、御前崎でビヨンの筋力を測定した。比較対象として学連セイラー4人(男子、20~21歳)を選び、結果は下表の通りである。非常に高度な測定器で、後により分析、他のトップスポーツマンとの比較など紹介する予定であるが、ビヨンのおおよそのパワーは知れる。各データとも学連平均の20~60%増し、極端なのは左足の伸展筋力で、学連平均の17.84±3.41kgmに対し39.83kgm。倍以上で、ビヨンの下半身の強さが伺える。興味深かったのは、このテストは筋肉の疲労/回復力を測るため短時間のインターバルにおいて3度の反復測定を行うのだが、回を重ねるにつれ筋力がアップしたこと。常識では考えられないことで、ビヨンが測定の要領を学習したのか、最初は本気ではなかったのか、そのあたりはなんとも言えない。ちなみに千代の富士の背筋力は280kg、鉄の爪フリッツ・フォン・エリック(古いな)の握力は100kgだったと言われている。

DATA of MUSCLES

測定項目	Bjoern D.	一般学連セイラー (4人平均)
肘屈筋力	右 7.81kgm	5.28±0.86kgm
	左 7.44kgm	5.33±0.66kgm
肩伸展筋力	右 8.56kgm	10.06±1.30kgm
	左 12.20kgm	10.49±1.20kgm
肩外転筋力	右 16.99kgm	10.31±1.43kgm
	左 16.34kgm	10.62±1.47kgm
握力	右 76.0kg	48.25±6.65kg
	左 69.0kg	43.25±5.28kg
背筋力	208.0kg	148.75±6.18kg
	36.57kgm	19.28±2.30kgm
膝伸展筋力	右 39.83kgm	17.84±3.41kgm
	左	



*握力および背筋は、握力計、背筋計を使用。
●測定期日▶93年5月5日 ●測定場所▶御前崎白羽海岸 ●測定機器▶ダイナトラック株式会社メディックス
●測定者▶筑波大学スポーツ医学研究室・野外運動研究室/吉田章 下條仁士、榎本聖也、加藤邦夫

ウインドサーフィンが好きで、
レースが好きで、勝つことが
好きだ、それ以上、どんな
モチベーションが要る？

LDタイトルをとった88年でも、ほくより速かった。いまも自分のスタイルでセイリングを教えていて、ほくもカナリーに帰ると、父や父の友人たちと一緒にそこでセイリングするんだ。同じものに興味を持ってから、ほくと父との関係はとも簡単だよ。親子というより友だちみたいだ。同じメンタリティを持って、いつも今に生きようとしていて、好きなことだけをやり、それを疑わない。将来についてもあれこれ心配しない。父はむかしデンマークで人を6人くらい使ってた。ジーンズを作る会社をやったんだ。けっこううま

くいつてたけど遊ぶ時間もなかった。カナリーに旅行に行き、ウインドサーフィンを楽しんで、こはいってあっさりカナリーに移住したんだ。好きな作家はいますか、ドストエフスキーだったら面白いんだけどねえ。
BD いや、小説は読まないよ。
●小説を読んで人生の意味を考える、みたいなメンタリティじゃないですよ。ねえ、最後の質問、ウインドサーフィンにおける、最大の弱点は？
BD 雨の日は、セイリングに集中できないことかな。
5月3日 御前崎にて。



90年は「ショートボードによるコースレーシング」のソフトウェア、ハードウェアが著しく進化した時期であり、かれらも例年に増して緊密だった。左、パリー・スペイン、右、ピーター・トーマン。特別に意味ないイメージ写真であります。



彼はふんぞり返って「速いセイルを作れ」なんて言わない、私と同じくらい努力してる。
(パリー・スペイン談)

ジミー・ルイスは、ビヨンならコペロに乗っても俺の板に乗ってもいつも1等賞だよ、と言ったが、F2のデザイナーのピーター・トーマン、ニールのパリー、そしてビヨンのR&Dチームが、このスポーツの臨界を駆けつけてきたことは疑いない。パリーは言う。「ビヨンはすごいエネルギーをテストにつきこみます。セイルもボードもフィンも、それがどんな状態で、どう働か完全に把握して、準備万端でレースに臨むんです」

BD ●そうするのがいいかどうか別問題
BD ●いや、彼女はただの友だち。
●シリアスなGFはいらぬですか、BD ●カナリーに少しシリアスな……でもそうでもないかな、女の子は難しいよ、いつも一緒にいれないから、でもビヨンの経済力があれば、フーストクラスに乗せて世界中連れ歩くこともできるでしょ。
BD ●その女性はかなりの美人だったけど、盛りを過ぎた元モデルという感じで、ビヨンよりいくつかな年上に見えた。もちろんビヨンに、ほら、あの盛りを過ぎたモデルみたいな、とは言えなかったけど。
BD ●いや、彼女はただの友だち。
●シリアスなGFはいらぬですか、BD ●カナリーに少しシリアスな……でもそうでもないかな、女の子は難しいよ、いつも一緒にいれないから、でもビヨンの経済力があれば、フーストクラスに乗せて世界中連れ歩くこともできるでしょ。
BD ●そうするのがいいかどうか別問題



●ビヨンのひょうきんな写真は、これを含め2枚しか見たことがない。カメラを向けると、ときには胸にみるような笑顔を向けてくれるけれど、92年サムタイム、3種目の全タイトルを1位で終えたビヨンはしかし、「ホバー・パークエクト、完璧だったらつまねーじゃんよ」と言ったのだ。ただね、
●レースへの集中力が殺られるってこと？
BD ●彼女は彼女でやることがあるから、いつも旅行するわけにはゆかない。働いていて、自分の生活がある。ほくも今は一人のほうがいい、朝の6時からセイリングしたいこともあるし、夜遅く帰ることもある、なんてこんな早くからセイリングするのは、どこに行っていたのといちいち聞かれたらちょっとしんどい。
●ビヨンって、どういうふうに着てられたのかなあ、たとえば、お父さんに殴られたことはある？
BD ●ほくはそんなに出来が悪くなかったから殴られたことはないよ。怒られたことも1回しか覚えていない。ウインドサーフィンをやりにきて、スクールバスに乗り遅れたときだけ、●ビヨンのお父さんってどんな人？
BD ●父？ GOOD GUYS、いつもウインドサーフィンやってる。風が強いと週に4日5日もやってる。すく速い、直線だけなら、ほくがワー



ワールドチャンピオン
の公式ウェアは
EUGO BOSS、
似合うんだなこれが
今年ビヨンは、ドイツのメジャー・ファッションメーカー「EUGO BOSS」のスポンサーを得た。服飾にはうまいのでよく知らないが、アルマーニよりステイタスがある(らしい)。ビヨンは言う。「BOSSのスタイルは、ほくみたいな人間と同じだ。ストレートでストロング」ストレートでストロング、と自分で自分を評し、それを納得させる男は、そうはいない。ビヨンは、このスポーツの、一般社会に対する広告塔でもある。

フアンの方皆さん、
ビヨンは変わりました、
ビヨらないでサインを
求めてください
確かに、変わった。ビヨンは、勝つことしか頭になく、フアンサインも熱心ではなかった。それが今年の御前崎では、精力的にフアンにサインをあげ、不自然ではない笑みで記念撮影を引き受けた。
「たったそれだけのことで、誰かをハッピーにさせてあげられるのに、なんでそうしやいけないの？」、「レースのときとオフのときの切り替えが上手になって、よりリラックスできるようになったんだよ」



確かに、興奮がひろがっている。以前のビヨンだった。10人に囲まれたらルイスに逃げたが、今は15人くらい平気でサインする。ビヨンに、変わったね、と言った。ほくは、つて毎年成長するのさ、だ。



©Erik Aeder 1993

ウインドサーフィン以外のことはあまりにみるみるうちに、スポンサーのためにファッション撮影するときは、こーゆー表情くらい作れるのだ。